# 投票立会人、大学生が体験

## 1人で来る若者見かけず■手順、戸惑う人たちに驚き

## 葛飾 東京聖栄大の3人

投票箱の前に座り投票の様子を見守る「投票立会人」というと、地域の中高年の人たちという印象がある。14日投開票された衆院選で、葛飾区の投票所で大学生3人が立会人を務めた。

選挙管理委員会の担当者から投票立会人の業務の説明を聞く八渡恒太さん（中央）＝葛飾区立石6丁目の立石中学校

区が、選挙に関心をもってもらおうと、区内の東京聖栄大に頼んだ。大学は学生の意向を聞き、健康栄養学部管理栄養学科の3年瀬崎志穂さん(23)、2年八渡恒太さん(20)らを選んだ。3人は投票開始の午前7時から終了の午後8時まで、受け持ちの投票所で見守った。

瀬崎さんは「貴重な体験。やってみよう」。派遣されたのは小学校の体育館。中高年の人たちから「若いのにえらいね」と声をかけられた。一人で投票に訪れる若い人がほとんどいないのが気になった。

昼ごろ、足の不自由な高齢の女性がやってきた。小選挙区、比例区、最高裁判所裁判官の国民審査と、つえをつき、投票して回った後、「投票はこれが最後になるかも」と言った。瀬崎さんは「医療や福祉のサービスを利用することの多い人ほど、政治を身近に考えているんだな」。

## 「むだと思わないで」一票の重み実感

70代ほどの女性は、家族らしき人の押す車いすで来た。女性は若者の低投票率を気にかけ、「選挙で決まるのは将来のことだから、もっと若い人に投票してもらいたい」と、瀬崎さんに声をかけた。

瀬崎さんは立会人を務めることを事前に友人8人に伝えた。みな、立会人のことを知らず、投票に行くという人もいなかった。瀬崎さんが、期日前投票や、遠方の実家に住民票を置いたままでも投票ができることを教えると、何人も「次からは考える」と言った。

瀬崎さんは「若い人がもっと投票すれば、若い人の声が政治に反映されると思う。むだと思わないで投票してほしい」と話す。

今回、区内の小選挙区の投票率は51・57％だった。年代別は後日まとまるが、若い世代はさらに低くなるとみられる。

9月に成人になった八渡さんは「間近で選挙を見てみたい」と引き受けた。小選挙区の投票だけで終わらないことに戸惑う人が何人もいた。若い世代だけでなく、中高年もいた。八渡さんは、選挙の仕組みが定着していないことに驚いた。

投票立会人は公職選挙法で定められている。選挙が公正に行われるよう、監視するのが役割だ。区市町村の選挙管理委員会が選挙人名簿から選ぶ。

都選管によると、町会役員などが選ばれることが多かった。近年、選挙に関心を持ってもらう目的で、若者を起用する自治体が全国的に増えた。

昨年7月の参院選では、都内30区市町が20代の人を選んだ。練馬区では今回、大学生を含む20代と30代の延べ118人が期日前投票所の立会人を務めた。

（佐藤純）